



# 胃がん検診を受けられる方へ

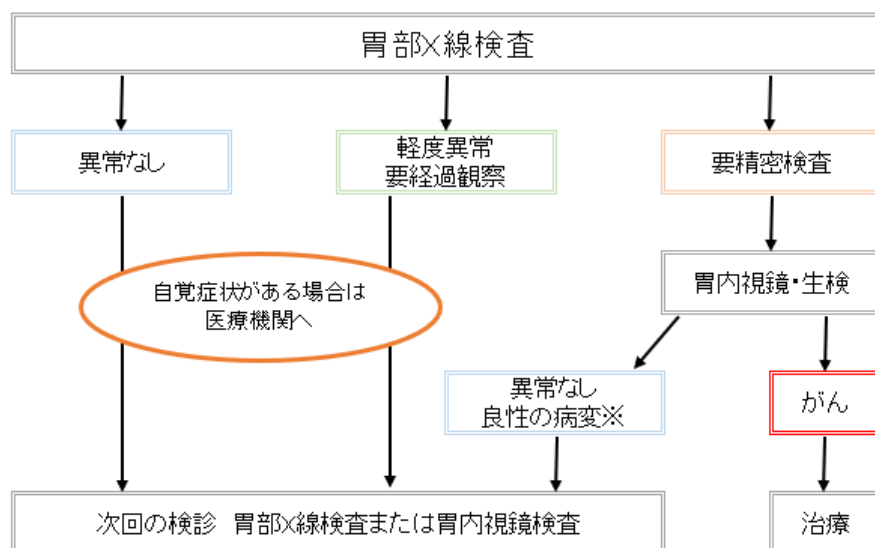


## ◎胃がん検診について

### 《胃がん検診の検査方法》

胃がん検診はバリウムを使った『胃部X線検査』または胃にカメラを入れて観察する『胃内視鏡検査』を行います。検診結果は胃の状態によって『A:異常なし』『B:軽度異常』『C:要経過観察』『D1:要医療』『D2:要精密検査』と判定されます。※『E1:主治医要相談』『E2:主治医要観察』の場合は、かかりつけ医にご相談ください。

A:異常なし	検査の範囲では異常を認めません。今後も検診を受け、異常がないか確認していきましょう。ただし、自覚症状がある場合は医療機関(消化器内科)にご相談ください。
B:軽度異常 C:要経過観察	すぐに精密検査が必要な状態ではありませんが、異常が認められるため経過を見ていく必要があります。ただし、自覚症状がある場合は医療機関にご相談ください。
D1:要医療	治療が必要な状態です。医療機関にご相談ください。
D2:要精密検査	がんなどの病気の可能性があるため、更に詳しい検査を受ける必要があります。要精密検査となったとしても必ずしもがんというわけではありませんが、必ず精密検査を受けてください。

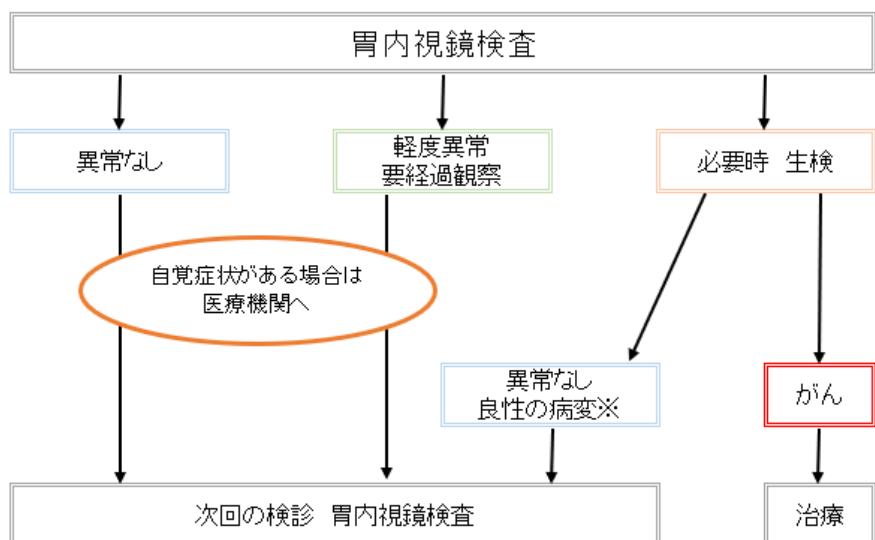


### 胃部X線検査で 精密検査となった場合

胃内視鏡を実施します。胃内視鏡を実施し病変があった場合、がんかどうか調べるため、生検を実施する必要があります。

#### \* 生検とは？

胃内視鏡実施時に胃粘膜など組織を採取します。採取した組織を調べ、がん細胞の有無や種類にて胃がんの確定診断を行います。



### 胃内視鏡検査時に生検した場合

生検を実施し、がんだった場合は医療機関での治療が必要になります。要治療となった場合、再度医療機関で胃内視鏡検査を実施することもあります。

※異常なし及び良性の病変だった場合は、生活習慣に気をつけ、次回の健診の際に胃内視鏡を受ける等、定期的に検診を受けましょう。

※ 良性と診断された場合は医師の指示に従ってください。

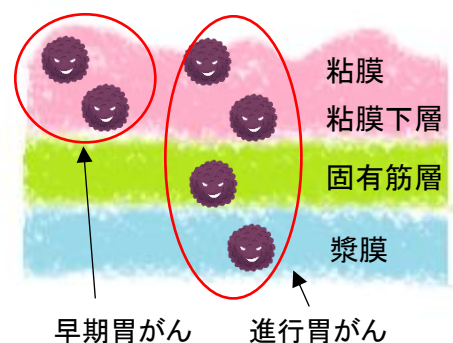
## 《 各検査のメリット・デメリット 》

検査内容	メリット	デメリット
胃部 X 線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査の感度(がんがある人を正しく診断できる精度)は 70～80%(死亡率減少が確認されている)。</li> <li>・胃がんの他に胃潰瘍やポリープを発見でき、治療に結び付けられやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・X 線による放射線の被曝。</li> <li>・バリウムの誤嚥や便秘、まれに穿孔などの偶発症が起きる可能性がある。</li> </ul>
胃内視鏡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病変が確認されれば、生検を行い確定診断まで可能。</li> <li>・胃粘膜を直接観察するため、小さな病変部を詳細に観察することが可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・局所麻酔薬を使うため、副作用のリスクがある。</li> <li>・カメラを挿入する際の苦痛がある。</li> <li>・胃粘膜などを傷つけることによる出血、穿孔の可能性はある(リスクは低い)。</li> </ul>

## ◎胃がんとは？

胃がんは胃壁内側の粘膜に発生します。がん細胞が、粘膜または粘膜下層までにとどまっているものを『早期胃がん』、固有筋層より深く達したものを『進行胃がん』といいます。

2020 年の統計では、男性は 11 人に 1 人、女性では 24 人に 1 人が一生のうちに『胃がん』と診断されています。胃がんはかつて日本人のがんによる死亡数の第 1 位でしたが、近年、診断及び治療方法が向上し、2023 年の統計では、男性では第 3 位、女性では第 5 位となっています。



## 《 胃がんのリスク 》

胃がんのリスク要因はいくつか指摘されています。

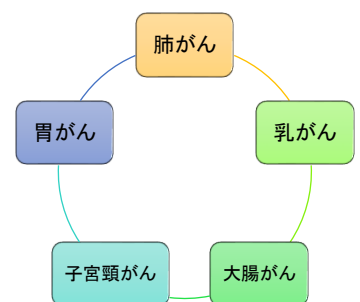
- ① ヘリコバクターピロリ菌 … 胃の粘膜にとりついて炎症を起こす細菌。50 歳以上の方は約 70% が感染。  
除菌治療を受けることで、胃がんのリスクを減らすことができます。
- ② 喫煙、多量の塩分摂取、飲酒などの生活習慣

## ◎がん検診を受ける目的は？

がん検診の目的は、がんを早期発見し、適切な治療へ早期につなげ、がんによる死亡率を減少させることです。

これまでの研究によって、胃・肺・大腸・乳・子宮がんの 5 つのがんは、それぞれ特定の方法で行う検診を受けることで早期に発見が可能となりました。また、早期のうちに治療を行うことで死亡率が低下することが証明されています。

ただし、全てのがんが発見されるわけではありません(偽陰性)。また、検査で要治療・要精密検査と判定がでて必ずがんというわけでもありません(偽陽性)。1～2 年に 1 回、定期的に検査を受けることによって、早期発見に努めましょう。



※精密検査結果は富山市医師会健康管理センターも把握し、精度管理や今後のがん検診に役立てて参りますのでご了承ください。

## 富山市医師会健康管理センター

〒930-0951 富山市経堂 4 丁目 1 番 36 号 TEL:(076)422-4811 FAX:(076)422-4816

E-mail:kenshin@po5.nsk.ne.jp ホームページ:http://www.tcma-kenkou.com/

